

第139回 (令和6年12月) 情報処理技能検定試験(表計算) 4級問題

<問題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表を完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 試験時間は20分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

社員名	基準額	査定A	査定B
青山 正信	389,000	85	70
森 さなえ	418,000	70	55
平田 大地	437,000	75	60
長谷川 心	361,000	80	85
本木 ゆう	426,000	95	50
田中 順子	374,000	65	95
大西 清美	405,000	60	70
森川 英二	392,000	85	65

<処理条件>

- <出力形式>のような賞与一覧表を作成しなさい。(――の部分空白とする)
- 期末手当=基準額×1.8
勤勉手当=500×(査定A+査定B)
総支給額=期末手当+勤勉手当
- 合計・平均(整数未満四捨五入の表示)を求めなさい。
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)

<出力形式>

賞 与 一 覧 表

社員名	基準額	査定A	査定B	期末手当	勤勉手当	総支給額
合 計		――	――			
平 均		――	――			

第139回 (令和6年12月) 情報処理技能検定試験(表計算) 3級問題

<問題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表を完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

番号	会員名	基本料金	利用時間
1	さくら会	24,800	12
2	令和企画	31,500	8
3	港町自治会	28,100	9
4	オオハラ	32,400	10
5	朝日商店会	30,600	7
6	短歌クラブ	40,500	5
7	富士の会	39,300	5
8	環境保全会	23,200	10
9	青年会議所	40,100	6

<判定表>

請求額	判定
41,700 以上	**
それ以外	*

<処理条件>

- <出力形式1>のような貸室請求額一覧表を作成しなさい。(――の部分空白とする)
- 管理費 = 基本料金 × 2.8% (整数未満切り捨て)
超過料金 = 基本料金 ÷ 5 × (利用時間 - 5) × 0.57 (整数未満切り上げ)
請求額 = 基本料金 + 管理費 + 超過料金
- 請求額の少ない順に順位をつけなさい。
- 判定は<判定表>を参照し、求めなさい。
- 合計を求めなさい。
- 基本料金の多い順に並べ替えなさい。
- <出力形式2>のような処理をしなさい。(平均は整数未満四捨五入の表示とする)
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)

<出力形式1>

貸室請求額一覧表

番号	会員名	基本料金	管理費	利用時間	超過料金	請求額	順位	判定

(途中省略)

――	合計						――	――

<出力形式2>

	基本料金	管理費	請求額
平均			
最大			

第139回 (令和6年12月) 情報処理技能検定試験(表計算) 準2級問題

<問題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 使用したテーブルを印刷しなさい。(表の形式は問わない)
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

社CO	社員名	製CO	作業数
101	松本 愛子	11	3,124
102	中村 英樹	14	4,317
103	南 かおり	12	3,926
104	後藤 哲夫	11	2,953
105	大山 美香	13	3,142
106	堀内 正人	12	4,000
107	小石川 心	13	3,067
108	鈴木 勇気	14	4,308

<製品テーブル>

製CO	製品名	賃金単価
11	製品E	69
12	製品F	53
13	製品G	76
14	製品H	58

<処理条件>

- <出力形式1>のような社員別賃金一覧表を作成しなさい。(――の部分空白とする)
- 製品名・賃金単価は<製品テーブル>を表検索しなさい。
- 基本賃金=賃金単価×作業数
技能手当=賃金単価×0.2×(作業数-2,500) (整数未満切り捨て)
特別手当=基本賃金×4.8% (整数未満切り上げ)
総支給額=基本賃金+技能手当+特別手当
- 作業数が4,000以上または総支給額が260,000以上に“**”、それ以外に“*”の評価をしなさい。
- 合計を求めなさい。
- 技能手当の昇順に並べ替えなさい。
- 社員別賃金一覧表の製品名のセル証明をしなさい。
- <出力形式2>のような処理をしなさい。基本賃金・総支給額は¥表示とする。(平均は整数未満四捨五入の表示とする)
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)
- 社員別賃金一覧表の総支給額の値を社員名別の縦棒グラフにしなさい。
タイトルは“社員別の総支給額”とし、凡例は“総支給額”とする。

<出力形式1>

社員別賃金一覧表

社CO	社員名	製CO	製品名	賃金単価	作業数	基本賃金	技能手当	特別手当	総支給額	評価
(途中省略)										
――	合計	――	――	――						――

<出力形式2>

	作業数	基本賃金	総支給額
平均			
最大			
最小			

第139回 (令和6年12月) 情報処理技能検定試験(表計算) 2級問題

<問題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 使用したテーブルを印刷しなさい。(表の形式は問わない)
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

CO	社員名	売上数	売上額	出張日数
101	中島 誠一	280	3,152,000	9
102	井上 愛奈	146	2,517,000	8
103	森山 勇樹	287	3,229,000	11
104	長谷川 正	184	2,481,000	14
105	西 かおる	180	2,754,000	10
106	岸田 哲男	265	3,612,000	13
107	小林 清美	159	2,354,000	7
108	田中 大地	275	3,715,000	12

<乗率表>

売上数	乗率
270以上	7.2%
180以上 270未満	5.8%
1以上 180未満	4.3%

<売上手当の計算式>

査定値	売上手当
810以上	145×査定値
それ以外	130×査定値

<評価表>

出張日数	支給総額	評価
14未満 かつ 16万以上		A
14未満 かつ 15万以上 16万未満		B
それ以外		C

※出張日数のデータは<出力形式2>で使用する。

<処理条件>

- <出力形式1>のような出張売上データ表を作成しなさい。(――の部分空白とする)
- 平均単価=売上額÷売上数(整数未満切り捨て)
- 乗率は<乗率表>を参照し、求めなさい。(％の小数第1位までの表示とする)
査定値=平均単価×乗率(整数未満切り上げ)
- 合計を求めなさい。
- <出力形式2>のような支給総額一覧表を作成しなさい。(――の部分空白とする)
- 査定値は出張売上データ表を参照しなさい。
- 出張手当=2,780×出張日数
- 売上手当は<売上手当の計算式>を参照し、求めなさい。
食費補助=950×(出張日数-1)
支給総額=出張手当+売上手当+食費補助
- 評価は<評価表>を参照し、求めなさい。
- 合計を求めなさい。
- 支給総額の昇順に並べ替えなさい。
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)
- 支給総額一覧表の査定値と評価のセル証明をしなさい。
- 支給総額一覧表の支給総額の値を社員名別の横棒グラフにしなさい。
タイトルは“支給総額の比較”とし、凡例は“支給総額”とする。

<出力形式1>

出張売上データ表

CO	社員名	売上数	売上額	平均単価	乗率	査定値
――	――	――	――	――	――	――
(途中省略)						
――	合計	――	――	――	――	――

<出力形式2>

支給総額一覧表

CO	社員名	査定値	出張日数	出張手当	売上手当	食費補助	支給総額	評価
――	――	――	――	――	――	――	――	――
(途中省略)								
――	合計	――	――	――	――	――	――	――

第139回 (令和6年12月) 情報処理技能検定試験(表計算) 準1級問題

<問題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 使用したテーブルを印刷しなさい。(表の形式は問わない)
- データ保存またはすべての表の数式印刷をしなさい。
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

CO	社員名	販売数	販売額	勤務日数	等級
101	秋山 清美	3,920	8,175,000	17	B
102	佐藤 一郎	4,070	8,354,000	20	A
103	西 あゆみ	3,730	7,912,000	18	C
104	佐々木 正	3,810	8,238,000	19	D
105	山田 梅子	3,950	8,316,000	21	E
106	前川 春樹	4,180	9,314,000	16	D
107	大石 ユリ	3,760	8,017,000	18	B
108	松下 公平	3,890	7,813,000	17	E
109	山本 哲夫	4,150	8,471,000	19	A

<基準テーブル>

基準販売数	3,940
基準販売額	8,290,000

<固定給テーブル>

等級	固定給
A	192,700
B	187,500
C	182,300
D	177,100
E	171,900

<判定表>

勤務日数	支給総額	判定
18以上 かつ 400,000以上		***
18以上 かつ 385,000以上 400,000未満		**
それ以外		*

※勤務日数・等級のデータは<出力形式2>で使用する。

<処理条件>

- <出力形式1>のような販売データ表を作成しなさい。(—— の部分は空白とする)
- $評定A = \frac{\text{販売額}}{\text{基準販売額}} \times 100$ (整数未満切り上げ) ※基準販売額は<基準テーブル>を絶対参照する。
 $評定B = \frac{\text{販売数}}{\text{基準販売数}} \times 100$ (整数未満切り上げ) ※基準販売数は<基準テーブル>を絶対参照する。
 出来高給 = $960 \times (\text{評定A} + \text{評定B})$
- 合計を求めなさい。
- <出力形式2>のような社員別支給総額一覧表を作成しなさい。(—— の部分は空白とする)
- 社員名・出来高給、固定給はそれぞれ販売データ表、<固定給テーブル>を表検索しなさい。
- $\text{特別手当} = (\text{固定給} + \text{出来高給}) \times 5\% \times \text{勤務日数} \div 20$ (10位未満切り捨て)
 $\text{支給総額} = \text{固定給} + \text{出来高給} + \text{特別手当}$
- 判定は<判定表>を参照し、求めなさい。
- 合計を求めなさい。
- 支給総額の降順に並べ替えなさい。
- 社員別支給総額一覧表を基に<出力形式3>のような処理をしなさい。
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)
- <出力形式2>の固定給・出来高給・特別手当を社員名別の積み上げ横棒グラフにしなさい。
タイトルは“社員別の集計グラフ”とし、凡例は“固定給”、“出来高給”、“特別手当”とする。

<出力形式1>

販売データ表

CO	社員名	販売数	販売額	評定A	評定B	出来高給
——	合計			——	——	

(途中省略)

<出力形式2>

社員別支給総額一覧表

CO	社員名	勤務日数	等級	固定給	出来高給	特別手当	支給総額	判定
——	合計	——	——					——

(途中省略)

<出力形式3>

勤務日数が18日以下の支給総額の合計	
等級がA以外の特別手当の最大	

第139回 (令和6年12月) 情報処理技能検定試験(表計算) 1級問題

<問題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 使用したテーブルを印刷しなさい。(表の形式は問わない)
- データ保存またはすべての表の数式印刷をしなさい。
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

得CO	商CO	売上数
A11	101	499
A11	102	800
A11	103	732
A11	104	529
B12	101	503
B12	102	721
B12	103	802
B12	104	695
A21	101	456
A21	102	771
A21	103	613
A21	104	604
B22	101	741
B22	102	587
B22	103	645
B22	104	600

<得意先テーブル>

得CO	得意先名
A11	ミナミ総業
B12	加藤ストア
A21	松山百貨店
B22	小野田商事

<商品テーブル>

商CO	商品名	原価
101	E商品	1,293
102	F商品	1,386
103	G商品	1,034
104	H商品	1,427

<値引率テーブル>

区分	値引率
A	7.9%
B	7.5%

<増量数の計算式>

売上数	増量数
600超	売上数×5.3%
それ以外	売上数×5.0%

※増量数は整数未満四捨五入・関数使用。

<評価表>

売上数	請求額	評価
800未満 かつ 1,100,000以上		***
800未満 かつ 800,000以上 1,100,000未満		**
それ以外		*

<処理条件>

- <出力形式1>のような得意先別売上一覧表を作成しなさい。(――の部分空白とする)
- 得意先名、商品名はそれぞれ<得意先テーブル>、<商品テーブル>を表検索しなさい。
- 定価=原価×1.28(10位未満切り上げ) ※原価は<商品テーブル>を参照する。
売上額=定価×売上数
- 区分は、得COの左から1文字目とし、関数を使用し求めなさい。
- 値引率は、売上数が600以下の場合5.3%とし、それ以外は<値引率テーブル>を参照し、求めなさい。(％の小数第1位までの表示とする)
値引額=売上額×値引率(100位未満切り捨て)
請求額=売上額-値引額
- 増量数は<増量数の計算式>を参照し、求めなさい。
- 評価は<評価表>を参照し、求めなさい。
- 合計を求めなさい。
- <出力形式1>と同じ形式で、請求額が100万以上で増量数が40未満を抽出しなさい。
表題は“得意先別売上一覧表(請求額100万円以上・増量数40未満)”とし、増量数の降順に並べ替えなさい。
- 得意先別売上一覧表を基に<出力形式2>のような処理をしなさい。
- 得意先別売上一覧表を基に<出力形式3>のような処理をしなさい。(平均は整数未満四捨五入の表示とする)
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)
- <出力形式2>の請求額を商品名別の円グラフにしなさい。
タイトルは“請求額の構成比”、凡例は商品名とし、％の小数第1位までの表示とする。

<出力形式1>

得意先別売上一覧表

得CO	得意先名	商CO	商品名	定価	売上数	売上額	区分	値引率	値引額	請求額	増量数	評価
(途中省略)												
――	合計	――	――	――			――	――				――

<出力形式2>

商品別集計表

商品名	売上数	請求額	増量数
E商品			
F商品			
G商品			
H商品			

<出力形式3>

売上数が600以上の売上額の平均	
商品名がG商品以外で増量数が35以下の件数	
定価が1,700円未満または売上額が100万円未満の増量数の合計	

第139回（令和6年12月）
情報処理技能検定試験（表計算）
初段 問題

試験時間	30分
------	-----

1. <入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成しなさい。
2. 表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
3. <出力形式>に「合計」「平均」などがある場合は、関数により処理を行うこと。ただし「——」部分は空白とする。
4. 表には罫線を引くこと。（罫線の太線と細線は区別する。外枠は太線とする。）
5. 使用したテーブルの表の形式は問わない。
6. [] 内文字はシート名とする。テーブルや作成する表にシート名があるものは、それぞれこのシート名でシートを作成し、処理を行うこと。
(例 <出力形式1> [前期]・[中期]・[後期] →前期、中期、後期の各シートを作成し、それぞれ指示された表を作成する。)
7. 作成したデータは事前に準備したファイル（初段・受験番号・名前）に上書き保存する。
(例：初段101日検太郎)

問 題

<入力データ> (各25件) ※テキストデータはSPS フォルダ内のデータを使用する。

[A商品]

社CO	得CO	売上数
101M	11	106
101M	12	95
101M	13	137
101M	14	84
101M	15	136
:	:	:
105M	11	85
105M	12	110
105M	13	134
105M	14	101
105M	15	99

[B商品]

社CO	得CO	売上数
101M	11	66
101M	12	73
101M	13	67
101M	14	136
101M	15	101
:	:	:
105M	11	59
105M	12	145
105M	13	97
105M	14	92
105M	15	147

[C商品]

社CO	得CO	売上数
101M	11	105
101M	12	80
101M	13	87
101M	14	101
101M	15	74
:	:	:
105M	11	127
105M	12	90
105M	13	140
105M	14	122
105M	15	67

<定価表> [テーブル]

売上数	定価		
	A商品	B商品	C商品
1~89	1,760	1,850	1,940
90~109	1,720	1,810	1,900
110~	1,680	1,770	1,860

<能力給単価テーブル> [テーブル]

区分	A商品	B商品	C商品
L	287	302	315
M	276	291	304
N	265	279	293

※区分は社COの右から1文字目。

<社員テーブル> [テーブル]

社CO	社員名
101M	大川 英樹
102L	南 かおり
103N	久保田 光
104L	杉山 春美
105M	山田 公平

<得意先テーブル> [テーブル]

得CO	得意先名	売上目標数
11	南部百貨店	1,620
12	中央ストア	1,520
13	新日本総業	1,570
14	さくら物産	1,590
15	SDK商事	1,530

<処理条件>

1. <入力データ> (テキストデータ、日本語シフトJIS、CSV形式)、<定価表>、<能力給単価テーブル>を使用し、<出力形式1>のような表をそれぞれのシートに作成。

<出力形式1> [A商品]・[B商品]・[C商品]

社CO	得CO	売上数	売価	売上額	能力給
(途 中 省 略)					

- 1) 売価=定価×0.93 (10位未満切り捨て)
- 2) 売上額=売価×売上数
- 3) 能力給=能力給単価×売上数 (10位未満切り上げ)

2. <出力形式1>、<社員テーブル>を基に、<出力形式2>のような表を作成。

<出力形式2> [計算表]

社員別支給額計算表

社CO	社員名	能力給			特別手当	積立金	支給額
		A商品	B商品	C商品			
(途 中 省 略)							
—	合計						

- 1) 社員名は<社員テーブル>を表検索。
- 2) 各能力給は基表の同項目の値を集計。
- 3) 特別手当=(A商品+B商品+C商品)×8.6% (10位未満切り捨て)
- 4) 積立金はA商品+B商品+C商品+特別手当を1,000で割った余り。
- 5) 支給額=A商品+B商品+C商品+特別手当-積立金
- 6) 支給額の降順に並べ替え。

3. <出力形式1>、<得意先テーブル>を基に、<出力形式3>のような表を作成。

<出力形式3> [計算表]

得意先別請求額計算表

得CO	得意先名	売上数			売上総数	売上額			売上総額	値引額	請求額	達成率	評価
		A商品	B商品	C商品		A商品	B商品	C商品					
(途中省略)													
—	合計											—	—

- 1) 得意先名は<得意先テーブル>を表検索。
- 2) 売上数・売上額の各A商品・B商品・C商品は、基表の同項目の値を集計。
- 3) 売上総数=売上数のA商品+売上数のB商品+売上数のC商品
- 4) 売上総額=売上額のA商品+売上額のB商品+売上額のC商品
- 5) 値引額は、売上総額が255万以上の場合、売上総額×4.7%、それ以外は、売上総額×3.9%。(100位未満切り捨て)
- 6) 請求額=売上総額-値引額
- 7) 達成率= $\frac{\text{売上総数}}{\text{売上目標数}}$ (%の小数第1位未満切り上げ)
- 8) 売上総数が1,530以上または達成率が100.0%以上の場合、“良好”の評価をする。

4. <出力形式3>を基にグラフを[計算表]シートに作成。

- 1) グラフの種類は、得意先名別の売上総数を折れ線、請求額を縦棒にした複合グラフ。
- 2) グラフタイトル、凡例は以下のとおりにする。

